

平成28年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価 - 1 -	
① 重点項目	学習活動
② 重点課題	教科指導の充実
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で学習指導法や評価の仕方等を記載したシラバスを生徒に配布している。しかし、生徒は分野・科目選択の資料として利用しているが、学習の指針として、十分に活用するに至っていない。 授業検討会を適宜実施して、生活実態調査結果の分析などを通して、生徒理解を深めるとともに、教科の指導法や評価法等を研究している。
④ 達成目標	各教科担当者による授業検討会（互見授業などを含む）の実施 ※各学期の回数と内容の充実
	具体的には、教科ごとに、学期に2回（3学期は1回）以上の実施
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導力の改善を目指す授業検討会を開き、効果的な指導法や生徒の学習成果を測る評価法を研究する。（継続） 新カリキュラムの完全実施を通して、生徒の実態を踏まえた教科、科目の指導法を研究する。 教科指導はシラバスに基づき実施する。その際に、授業と家庭学習の内容を明確に位置づける。 授業に対する生徒アンケートを分析して、教科指導法の工夫に役立てる。
⑥ 達成度	概ね良好である。
⑦ 具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の互見授業実施日 国語（11/19） 地歴公民（12/14） 数学（11/8, 12/13） 理科（6/22, 11/2, 11/7） 保体（2月予定） 芸術（6/17, 1/23） 英語（2月予定） 家庭（2月予定） 農業（11/18） 商業（11/14, 11/17） 各教科の授業検討会実施日 国語（4/1, 5/20, 10/25, 12/19） 地歴公民（4/1, 6/24, 9/16, 12/14） 数学（4/1, 5/27, 10/28） 理科（4/1, 6/15, 10/26） 保体（4/1, 6/1, 8/31, 9/9） 芸術（4/1, 4/21, 6/14, 6/17, 11/22） 英語（4/1, 4/22, 5/18, 6/27, 8/26, 10/25, 12/5） 家庭（4/1, 5/30, 6/27, 12/7） 農業（4/1, 7/25, 8/29, 12/9） 商業（4/1, 7/3, 11/27） <p>検討された内容</p> <p>全教科共通：年間指導計画、授業進捗の確認、シラバス、分野選択の問題点 次年度の教科書採択、H29年度教育課程の検討 学校設定科目の設置、互見授業について等</p> <p>個別教科：主権者教育について（地歴・公民）、数学検定を利用した指導法（数学） 「生活理科」の学習内容、指導形態について（理科）、 「英語表現Ⅰ」「応用英語表現Ⅰ」の継続履修と展開内容（英語） 生徒実習服検討、授業2時間続きについて（農業） 障害のある生徒の授業内容と評価（保体） 資格取得の取組み・検定結果の分析（家庭、農業、商業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者研究授業<2月予定>および事後研修の実施（保健体育・英語）
⑧ 評 価	B
⑨ 学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな指導がなされていると感じる。 互見授業を今後とも継続してもらいたい。 家庭における学習時間の少なさが気にかかる。課題の分量を考えて少しずつ与えてはどうか。 教える内容をシンプルにし、生徒が学び合う体制を作ってってもらいたい。
⑩ 次年度以降に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づき、かつ本校の教育目標、生徒の実態等を踏まえて、新教育課程がより有効なものとなるように検討を行い、取り組む。 授業検討会の充実を図る。具体的には、基礎学力の定着をはかる方策や互見授業等による指導法の研究を進める。ICT機器の活用技法も積極的に習得を広めていく。 学習生活実態調査の分析や教員間の情報交換を通して生徒理解を深め、指導に生かしていく。 生徒に達成感を与え、かつ適切な評価につながる課題を工夫する。 家庭学習の時間を確保し、課題を指定された期日までに提出する習慣をつけさせる。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)